

令和 5 年度 県立太田第一高等学校〔定時制〕 自己評価表

目指す学校像		グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校							
三つの方針			具体的目標						
「三つの方針」(スクール・ポリシー)			「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(1) 自他を尊重し、より良く生きるための自己指導能力を育成する。 (2) 社会の一員として、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育成する。 (3) グローバルな課題に気がつき、問題意識を持つことができる力を育成する。					
			「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 授業の中で自己理解、他者理解を深化させる機会を作る。 (2) 社会生活に必要な知識・技能を学びなおせるよう個別最適化された学びを目指す。 (3) 思考力・判断力・表現力を磨く場面が多くなるように授業を工夫する。 (4) 自己有用感や達成感、協調の意義を感じられるように学校行事を運営する。					
			「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(1) より良く生きるために学びたいと希望する生徒を募集する。 (2) より良く生きるために積極的に自分を変えようとする勇気のある生徒を募集する。					
昨年度の成果と課題			重点項目		重点目標		達成状況		
・学習指導においては、基礎学力の定着について一定の成果を見ることができたが、学力の向上のためには一人ひとりのニーズに沿う指導が必要。 ・学校行事に生徒が主体的に関わるようになってきたが、一部参加率の低い行事があった。			(1) 個別最適化された学びの推進		①生徒による授業満足度の平均値 80 パーセント以上。		A		
			(2) キャリア教育の充実		①キャリアガイダンスの実施。 ②担任による個別面談月 1 回以上。		A		
			(3) 学校行事の創意工夫		①文化祭での役割分担一人一役以上。 ②年間行事参加率 80 パーセント以上。		B		
			(4) 適切なワークライフバランスの実現		①超過勤務時間が月 45 時間以上の教職員ゼロ。 ②時差出勤制度を利用する教職員が 8 割以上。		A		
評価項目	具体的目標		具体的方策				評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	国語への興味・関心、基礎学力、コミュニケーション能力を高め、日常生活に生かすことができるようにする。	(1) 漢字を日常生活で活用することができるよう、漢字の読み・書き取りの反復練習と語句の意味調べを行う。				A	A	調べ学習だけでなく、作文等でも ICT を活用できるようにするため、指導を工夫したい。また、自分の考えをまとめ発表させる場面を、さらに多く設定したい。
			(2) 表現の知識・方法を身に付けることができるよう、ICT も活用して作文指導を行う。				A		
			(3) コミュニケーション能力を高めることができるよう、考え表現する活動を行う。				B		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標		具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	地歴公民	地歴公民への興味・関心を高め、人生をより豊かにするような実生活でも活用できる知識や考え方を身に付けることができるようにする。	(1) 生徒の興味・関心を高めるため、学習内容を日常生活と結び付けられるように教材を作成し授業を行う。	A	A	ICT 機器を活用し自ら調べたり、考たりして、それを表現する授業を増やす。
			(2) 日常生活でも活用できる知識・考え方を身に付けられるように、教材を作成し授業を行う。	A		
			(3) 学習内容をより理解できるように、ICT を活用して写真や映像、地図等を共有し教材として活用する。	B		
	数学	基本事項の理解に向け、数学への興味・関心が高まる授業に取り組むとともに、生徒の実態に即した教材を選択実践する。	(1) 定義・定理などを平易な表現で提示する。	A	A	自ら進んで問題に取り組むことができるよう演習に取り組む時間を十分に確保する。
			(2) 解ける喜びを体験できるように、基本問題を準備し授業を行う。	B		
			(3) 理解の程度に応じて ICT を含む作業を取り入れた授業を行う	A		
	理科	自然界の事象に関する興味・関心を高め、身の回りの現象や事物について科学的に理解することができるようにする。	(1) 生徒の興味・関心が高まるよう、身の回りの現象や事物を多く取り入れた授業を行う。	B	A	身近な現象、事物を扱う授業を更に増やす。 ICT の活用を更に工夫する。
			(2) 理解が深まるように、図、写真、動画、ICT 機器などの教材を活用する。	A		
			(3) 生徒が授業に主体的に取り組むことができるように、実験、実習を多く取り入れる。	A		
	保健体育	保健の知識を身に付け、生活習慣に生かすとともに、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	(1) 保健の授業では、ICT 等を活用し生活に結びつけられるように、できる限り身近な話題を取り上げる。	B	A	生涯体育につながるよう運動の楽しさを追求した事業の展開。
			(2) 体育の授業では、ICT を活用し運動技能を高めて競技が楽しくなることを体験するような活動を取り入れる。	A		
			(3) コミュニケーション能力を高めることができるよう、授業に集団的活動を取り入れる。	A		
	芸術	表現力の向上、鑑賞の基礎的能力の伸展に向け、創造の喜びを実感する授業に取り組む。	(1) 表現力の基礎を向上することができるように、個別指導を丹念に行う。	A	B	ICT 機器を活用した鑑賞指導等の工夫。
			(2) 一人一人の作品の良さを感じ取ることができるように、お互いの作品を鑑賞する場面を授業に設定する。	B		
			(3) 生徒が意欲を持って制作活動ができるように、興味を持つような題材を設定するとともに、制作の達成感を味わうことができるように、作品の完成に向け、個別に指導を行う。	B		
	外国語	英語を聞き、話し、読み、書く基礎的な能力を身に付けるとともに、英語を理解し、英語で表現しようとする能力を身につける。	(1) 自力で英文の内容を読みとろうとする積極的な態度を身に付けるため、ICT を活用した授業を展開する。	A	A	ICT 機器を活用した授業をさらに増やす。 ペアワーク等生徒が活動する時間を増やす。
			(2) 読解に必要な文法事項を理解できるように、動画を利用しながら文法事項を説明する。	A		
			(3) 基本的な日常会話表現を使うことができるように、授業でペアワークを活用する。	B		

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
家庭	家庭	基礎的な知識・技術を身に付け、生活の課題を見出し、改善しようとしてすることができるようにする。	(1) 生活に必要な知識や技術を習得することができるように、個人差に配慮した指導法を工夫する。			※今年度は2学年の在籍がないため実施なし。
			(3) 生徒が授業内容を理解することができるように、ワークシートを作成し授業で活用する。 (4)			
			(3) 身近な生活の中に課題を見つけ、改善方法を考えることができるように、ICTを活用した画像や動画、新聞記事を教材に取り入れる。			
情報	情報	情報及び情報技術を活用するための知識と技術を習得するとともに、社会の中での役割や影響を理解することができるようにする。	(1) 生徒が文書作成、表計算をすることができるようになるために、ローマ字入力をする活動を取り入れる。	A	A	新課程で新しく取り入れられたプログラムの実習を充実させていく。
			(2) ICTを活用して必要な情報を収集する活動を行う。	A		
			(3) 簡単な著作権侵害の具体例を基に、情報化社会に参加する上でのモラルについて考える活動を設定する。	A		
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務		1 授業時数・行事予定の管理により、授業の確保、行事の円滑な運営を行う。	(1) 年間授業時数の確保に向けて、週毎に時間割の検討・調整を行う。	A	A	4年後の閉課程に向けて、学校行事の精選、内容、実施方法について検討する。
			(2) 学校行事等の円滑な運営に向けて、事前の打ち合わせ・調整・手続きを十分に行う。	A		
		2 ICT活用法等の改善により、校務を効率化する。	(1) アンケートの実施・集計等にICTを活用する。	B		
			(2) 校務支援システムの円滑な運用に向けて適切に管理する。			
		3 多様な方法での広報活動により、志願者の増加に努める。	(1) 定時制Webページのこまめな更新を行う。中学校訪問や定時制の学校公開を行う。	A		
			(2) 成人特例選抜の案内を近隣市町村の広報紙を通じて行う。			
生徒指導		1 教職員間・保護者との報告連絡相談を密に行い、生徒が基本的な生活習慣を身に付けることができるようにする	(1) 専任者が共通理解をもって指導するため、生徒の情報を専任会等で共有する。	A	A	ネットの危険性についての（闇バイト等）注意喚起と生徒の規範意識の醸成。
			(2) 挨拶やマナーアップを個別に指導するため、毎日登校時に全職員で立哨指導を行う。	A		
			(3) 家庭との、遅刻・欠席・早退などの連絡報告を徹底する。	A		
		2 学校行事等に規範意識を高める機会を設け、学校生活・社会生活における規律を守ることができるようにする。	(1) スマートフォン・タブレットの適切な使用を促すため、スマホの家庭ルール作り・集会での指導を行う。	B		
			(2) 交通講話・登下校における自転車・原付バイク・自家用車の使用状況確認、集会での指導を行う。	B		
			(3) 薬物乱用防止に向け、薬物に関する講話や集会での指導を行う。	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動	生徒が行事運営に参加する機会を設けることにより、生徒が学校行事に出席することができるようにする。	(1) 集会・学校行事において、行事運営ができるように、生徒に役割を与える。	A	A	キャリアパスポートを振り返り等に更に活用する。
		(2) 定通芸術展・定通体育大会等を学習や生活の成果を発表する場とできるよう、授業やHRで指導を行う。	A		
		(3) 「キャリア・パスポート」を活用し、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考える時間を設ける。	B		
進路指導	キャリア・カウンセリング等を行うことにより生徒が希望する進路を実現できるように支援する。	(1) 自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力の育成に向けて、キャリア・カウンセリング(「キャリア・パスポート」の活用)を行う。	B	A	「キャリア・パスポート」の活用をした「振り返り」を行う。
		(2) 体験活動から進路を考える機会とするため、アルバイトや職場見学・オープンキャンパス参加を促す。	A		
		(3) 就職試験・入学試験に向けて、生徒個々に応じた学習相談・出願指導・面接指導・情報提供を行う。	A		
保健厚生	保健関係行事や相談等を行うことにより、生徒が自分の心身の健康を意識して生活することができるようにする。	(1) 個別に健康相談・栄養指導を行い、生徒が自分で健康を管理する方法を指導する。	B	B	健康診断事後指導、アンケートの実施、保健だよりの発行を通して、引き続き基本的な生活習慣の確立を働きかけていきたい。
		(2) 健康診断事後指導において、生徒が自分で健康を管理する機会を家庭で設けるよう、保護者に依頼する。	B		
		(3) 悩みがある生徒に、希望に応じて、悩みの解消に向けて教育相談の実施・専門機関との連携を行う。	B		
		(4) 新型コロナウイルス感染症の収束後も、手洗い・うがい・換気の励行等を指導する。	B		
第1学年	定時制で学ぶための、生活習慣や学び方を身に付けることができるようにする。	(1) 他の人のことを理解することができるようにするため、HRや「道徳」での指導・面談を行う。	A	B	社会規範の指導 キャリアパスポートを積極的に活用した指導
		(2) 学校・社会のルール・マナーを理解することができるようにするため、登校指導での声かけ、授業・HRにおける指導・面談を行う。	B		
		(3) 他の人と一緒に活動することに喜びを感じることができるようにするため、キャリア・パスポートを活用した面談・声かけを行う。	B		
		(4) 自分を俯瞰的に見つめることができるようにするため、キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリングを行う。	B		
第2学年	基本的な生活習慣を身に付けるとともに、級友や家族の気持ちになって考え行動することができるようにする。	(1) 級友や家族の気持ちを考え行動することができるようにするため、HRでの指導・面談を行う。			※今年度は2学年の在籍なし。
		(2) 学校・社会のルール・マナーの意味を理解し行動することができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HRにおける指導・面談を行う。			
		(3) 集団の中で自分の役割の意味を理解し行動することができるようにするため、キャリア・パスポートを活用して面談・声かけを行う。			
		(4) 級友や家族の思い・考えを受けとめ、自分に何ができるかを考えることができるようにするため、キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリングを行う。			
第3学年	目標をもって生活するとともに、自分の属する集団のことを考え行動することができるようにする。	(1) 学校や身の回りの人の気持ちを考えて行動することができるようにするため、HRでの指導・面談を行う。	A	B	他者の気持ちを考えて行動できるようにさせるため、HRでの指導・面談、授業や登校指導での声かけを、さらに充実させたい。
		(2) 社会のルール・マナーの意味を自分で考えて行動することができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HRにおける指導・面談を行う。	A		
		(3) 集団の中で自分の役割や意味を、自ら考えて行動することができるようにするため、キャリア・パスポート等を活用した面談・声かけを行う。	B		
		(4) 学校や自分の属する集団に思い・考えをもち、自分に何ができるかを考えることができるようにするため、キャリア・パスポート等を活用したキャリア・カウンセリングを行う。	B		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第4学年	将来への目標をもって生活するとともに、社会的に自立することができるようにする。	(1) 社会や地域の人の気持ちを考え行動することができるようにするため、HR での指導、面談を行う。	B	B	面談の機会を増やし、より生徒理解に努める。
		(2) 学校・社会のことを考え規律ある行動をすることができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HR における指導・面談を行う。	A		
		(3) 集団の中で自分の役割を果たすことに喜びを感じることができるようにするため、キャリア・パスポートを活用した面談・声かけを行う。	B		
		(4) 社会・地域への思い・考えをもち、自分に何ができるかを考えることができるようにするため、キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリングを行う。	B		

※ 評価規準：A：大変よくできた（達成度 100～80％） B：よくできた（達成度 80～60％） C：普通（達成度 60～40％）

D：あまりできなかった（達成度 40～20％） E：全くできなかった（達成度 20～0％）